

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		就労準備型芳泉（クラス2：らいふアップ芳泉）				公表日 令和 8 年 3 月 25 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		4	活動内容を考えながらスペースを考えて取っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。		4	こどもが集中して落ち着いて活動に参加できるよう、机と椅子を人数分設置している。	こどもの状態に対しての職員数が足りないと感じる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		玄関がバリアフリーになっていないので転倒防止に努めている。 室内はバリアフリーになっている。	玄関がバリアフリーになっていないため、転倒のリスクがある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		整理整頓に心掛けている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		パニック状態になった際は、他のこどもと部屋を分けている。	専用の部屋はないため、部屋分けで対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		日々、業務後に情報共有を行い、振り返りを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員間で、問題があった場合速やかに話し合っている	ご意見を十分にお聴きできているか、面談等で確認をする必要がある	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		職員の意見を聞く場を設けて業務改善に繋げている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		第三者による外部評価は行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		臨床心理士による内部研修だけでなく、外部研修も参加しています。	全員が平等に受けられるよう工夫する必要がある	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		ホームページ上に掲載している	見直しが不十分である	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		保護者面談の際、丁寧にアセスメントを行い、個別支援計画に反映している		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		様々な職員の意見を出し合う場を設けている		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		朝礼や昼礼等で、その日に利用する一人ひとりの子どもについて共有している	一日利用の日に出勤する職員に共有するタイミングが難しい	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		日々の活動中の様子観察や、職員間の共有、保護者や学校の先生の聞き取りを含め行っている	職員によって、捉え方に差がある	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		日々の活動中の様子観察や、職員間の共有、保護者や学校の先生の聞き取りを含め行っている		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		立案は担当者が考えたものをチームで話し合い活動担当者が準備し実践している。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		毎月ミーティングを行いプログラムを考えている。	意図的に固定化し、定着を目的としている活動がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4		必ずチームで時間をつくり、活動の共有と留意点を話し合っている。	朝から子どもが利用する際、すぐに送迎に出發するケースがあるため、開始前の打ち合わせの時間が確保できない場合もある
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		必ずチームで時間をつくり、活動の共有と留意点を話し合っている。	朝から子どもが利用する際、すぐに送迎に出發するケースがあるため、開始前の打ち合わせの時間が確保できない場合もある
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		支援後には経過記録を記入しながら、スタッフ間で話し合いの時間を設けている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		日々経過記録を全員で記入している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		月1のミーティングや毎日の夕礼時に今日の子供たちの様子を話し合いと記載をし、支援の改善につなげている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4		月間スケジュールを毎月発行し、偏りがないよう複数の活動を取り入れている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	4		自由あそびや活動参加時等、本人の意見を尊重し、自己決定する力を育てる声掛けや支援を行っている。	こだわりの強化や要求の固定化につながらないよう、発達段階や特性に応じた選択肢を工夫する必要がある。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		全体を把握し、様々な質問にも対応できる職員が参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		総合支援協議会の行事にこどもと参加し、地域の方と交流を図っている。	協議会は平日の午後から開催されるため、参加が難しい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		保護者を通じて下校時刻の把握ができています。送迎時の対応やトラブルの連絡も、都度行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		就学前に利用していた保育園や児童発達センターとのサポート会議を行ったり就学前の情報が記載されているサポートブック等を通じて情報共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		該当なし	該当なし
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4		地域に発達支援センターがない	地域に発達支援センターがない
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4		地域との交流は難しいが、地域の公園に行き交流がもてる体制を設けています。	
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4			協議会の開催が午後からのため、参加が難しい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		特に気になる様子が見られた際は、送迎時に直接お伝えをしたり、保護者に電話で伝え共通理解を持つようしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		臨床心理士の個別相談の中で、家族支援をする機会を設けているため、希望者は参加している。	面談時に保護者へアドバイスをすることはあるが、家族支援プログラムに関する研修等の情報提供は行っていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		利用前の契約時に説明している。	支援内容について、支援プログラムを具体的に説明する機会がなかった
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		利用前にアセスメントで詳細について確認をしている。	こどもの意向が十分に行えない対象児がいる

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		事業所に半年ごとにお越しいただき、支援内容の説明を行い、サインをいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		保護者から依頼があった際は、事業所にお越しただいて面談と助言等を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		4	保護者参加の活動時には、保護者同士・きょうだい同士で話ができるような場づくりをしている。	参加したいが仕事で予定が合わない保護者の対応を検討していく必要がある
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		重要事項説明書に記載し、利用前に共有させていただいている。苦情があった場合は透明性を重視し、すぐに報告・対応する体制を取っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		毎月のお便りや、Instagram、HPブログ等で活動の様子を発信している。活動予定も月間スケジュールを配布している。	情報提供を行っているが、紙媒体の紛失や、SNSに馴染みがない保護者等への工夫が必要
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		利用前に個人情報の同意書に基づき説明をさせていただき、サインを頂戴している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		言葉・単語・写真・絵等、個々の状況に応じて配慮が必要な方への情報伝達の工夫をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4			地域の高齢化により、参加率が年々低下している
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		各種マニュアルを策定し、職員には研修を通じて、ご家族には毎月のお便りの中で周知している。	マニュアルをご家族に見せて説明をすることができていない
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		委員会活動を通して、他事業所と相談しながら各種訓練を定期的実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		事前に確認をし与薬が必要な場合おくすり手帳のコピーを提示していただき対応を確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		アセスメントの際、確認をして職員と共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		委員会活動を通して、他事業所と相談しながら各種訓練を定期的実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		利用前のアセスメント時に情報を共有したうえで受け入れを行っている。	利用後の取り組み内容の周知が不十分である
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハット報告書を作成し事業所内で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		委員会活動を通して、他事業所と相談しながら研修を定期的実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4		契約時に説明している。		